

令和2年度  
心の輪を広げる体験作文  
障害者週間のポスター  
作品集

群馬県  
群馬県肢体不自由児協会



あいさつ

群馬県知事 山本一太

「心の輪を広げる体験作文」、「障害者週間のポスター」の募集に多くの方々から御応募をいただき、深く感謝申し上げます。今年度は、県内の小中学校・高等学校・特別支援学校等の児童・生徒の皆様から、作文の部で九十一作品、ポスターの部で三十四作品の応募がありました。どの作品も、障害のある方とない方との関わりを通じた思いやりの心が表現されており、将来を担う若い皆様の心に、このような気持ちが育まれていることをとても嬉しく思います。それらの作品の中から、十八作品を優秀作品として表彰することにいたしました。

県では、昨年「群馬県障害を理由とする差別の解消の推進に関する条例」を制定し、障害の有無によって分け隔てられることなく、全ての人がお互いを尊重しながら共生する社会の実現を目指しています。多くの方々はこの作品集を御覧いただき、障害のある方への理解と関心がさらに高まることで、多様性を尊重する地域社会への実現に結びつくことを期待しております。

結びに、作品の応募に当たり、御協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、あいさつといたします。

令和二年十二月

## 入賞作品

### 心の輪を広げる体験作文【知事表彰】

#### ■小学生部門

最優秀賞	大好きな場所で	渋川市立豊秋小学校	四年	齋藤 芽吹	1
優秀賞	おにいちゃん	桐生市立菱小学校	一年	田村 耀明	2
佳作	しょうがいがあっても、がんばる人	桐生市立北小学校	三年	久保田 真央	3

#### ■中学生部門

最優秀賞	私の妹	太田市立城東中学校	三年	高田 莉乃	4
優秀賞	自由に生きる	太田市立城東中学校	一年	小林 明日香	6
佳作	共生する社会へ	太田市立太田中学校	三年	大西 結愛	8

#### ■高校生部門

最優秀賞	「障がいは個性だ」という言葉を。	群馬県立伊勢崎興陽高等学校	二年	茂木 菖	10
------	------------------	---------------	----	------	----

# 心の輪を広げる体験作文〔肢体不自由児協会会長表彰〕

## ■小学生部門

最優秀賞	山田さんとぼく	太田市立宝泉小学校	三年	田邊 結望	13
優秀賞	ずーつといっしょ	桐生市立神明小学校	一年	福島 佐和	14
佳作	おもしろいおにいちゃん	桐生市立菱小学校	三年	田村 崇明	15

## ■中学生部門

最優秀賞	通じ合える嬉しさ	群馬県立聾学校	一年	大澤 未来	16
優秀賞	僕の家族	邑楽町立邑楽中学校	三年	平川 力暉	18
佳作	ぼくの体	群馬県立二葉特別支援学校	一年	高梨 翔	20

## ■高校生部門

最優秀賞	障害・病気に対して	群馬県立伊勢崎興陽高等学校	三年	吉田 ほのか	21
------	-----------	---------------	----	--------	----

## 障害者週間のポスター【知事表彰】

### ■小学生部門

最優秀賞 表彰台のてっぺんを目指して

前橋市立永明小学校

六年 今井 奏良

### ■中学生部門

最優秀賞 繋がる心で広がる世界

藤岡市立西中学校

三年 米川 心優

優秀賞 助け愛 笑い愛

みなかみ町立月夜野中学校

一年 澁谷 咲葵

## 障害者週間のポスター【肢体不自由児協会会長表彰】

### ■中学生部門

最優秀賞 「普通」じゃない。だから良い。

前橋市立南橋中学校

三年 星野 百香

心の輪を広げる体験作文

【知事表彰】



## 大好きな場所で

洪川市立豊秋小学校

四年 齋藤芽吹

わたしは、休校中や夏休みに、母の仕事場である放課後等デイサービスに行きました。そこには、小学校一年生から高校三年生までの支援が必要なお友達が毎日通ってきています。わたしは、二年生のところから遊びに行っています。

そこに通っているHくんは、わたしと同じ四年生で、支援学校に通っています。Hくんは、おんぶがしてほしくて、近づいてきます。最初は、とつぜんでびつくりしました。だからわたしは、

「おんぶしてください。って言ってね。」

と、Hくんに伝えました。すると、Hくんと、「おんぶちょうだい。」

と言ってくれたので、おんぶをしました。

夏休みの前に、母から、

「おんぶは、あぶないからもうしないでね。」

自分でHくんにごとわるんだよ。」

と、言われて、どうことわろうかとなやみました。夏休みになり、Hくんが来て、早速わたしの所に来て、

「おんぶちょうだい。」

と言いました。わたしは、

「ダメ。」

と言いながら、手でバツをしながらHくんに伝えました。それを何度かつづけると、

「おんぶちょうだい。」

と言わなくなりました。わたしの言ったことが、Hくんに伝わって、うれしかったです。

ふだんHくんは、わたしが言っていることを理かいしているのか分からなかったけれど、よく分かっているんだなと思いました。これからは、たくさんコミュニケーションをしてHくんと楽しいことをたくさんしていきたい

です。

ある日とつぜん、Tくんがたおれました。急にたおれたのでびつくりしました。Tくんは、てんかん発作でたおれたと母に後から、聞きました。てんかん発作とは、「脳の細胞に発生する異常な神経活動によっておこるもの」と知りました。Tくんは、とつぜん、「バタン」とたおれ、なにがおきたのかなと思いました。体がふるえ、意識がなくなっていました。わたしは、こわくなってしまいました。スタッフの人たちは、時間をかくにんしたり、けがをしないように見守っていました。今までこういうことを見たことがなかったけれど、いつでもTくんは、ヘッドギアをしているのは、このためなんだなと思いました。てんかん発作がおきたときには、おちついて見守ることが大切なのだと思いました。

しょうがいがあるからとかべを作ってしまうことがあるけれど、しょうがいについて少しでも知っていればすぐに仲良くなれると思います。わたしたちから、声をかけてかべをのりこえていきたいです。わたしは、母の仕事場です。時間が大好きです。

## おにいちゃん

桐生市立菱小学校

一年 田村 耀明

ぼくのきょうだいをしようかいます。

3人きょうだいで、おにいちゃんがふたりいます。

すぐうえのおにいちゃんは、おなじがっこうにいます。

いちばんおおいおにいちゃんは、こうこうせいです。しえんがっこうというところにいるいます。

おにいちゃんのめが、みぎとひだりとで、ちよとずれてるときがあります。でも、テレビとエーチューブをいつもみています。おまつりとかのりものとか、しむらけんのテレビとかをわらってみます。みせてもらえないと、おこっています。

おにいちゃんは、はなしができないけど、な

にかいています。

おにいちゃんがおなかをたたきます。そういうときは、トイレかなとおもって、おかあさんにおしえてあげます。

さんぽにいたり、おみせにいったときに、てをつないであげます。でも、つよくにぎつたり、つねつたりします。すこくいたいです。いたいよっておしえると、こめんねをします。こめんねができるから、おにいちゃんは、えらいです。だから、ぼくは、またてをつないであげます。

おにいちゃんは、こうこうで、べんきょうをしています。どんなべんきょうをしているかは知らないけど、がんばっています。

ぼくは、しょうがくせいになったから、べん

きょうをがんばっています。まんなかのおにいちゃんも、がんばっています。

いちばんおおいおにいちゃんは、みんなのおにいちゃんと、ちがうがっこうです。

でも、みんなのおにいちゃんと、ちよつとちがいます。

マヨネーズとなまクリームを、まちがえてるときがあります。それをみてぼくは、わらっちゃいます。

おもしろいこともするけど、なかよしのおにいちゃんです。



## しょうがいがあっても、がんばる人

桐生市立北小学校

三年 久保田真央

わたしは、しょうがい者がたいへんだと思います。目が見えないとか、話せないとか聞こえないとか、いろいろな病気があります。わたしが一番たいへんそうだなと思うのは、耳が聞こえない人です。聞こえないと、どう返事したらいいか分からないからです。もし、赤ちゃんの時からそうなると、言葉をおぼえられなくなるかもしれません。わたしには、たくさん友だちがいますが、しょうがいをもっている人は、「友だちはいるのかな。」と、思いました。病気の人はどんな生活をしているのか知りたいと思いました。だから少し考えてみました。どれもたいへんで、一人ではできないかと思いました。いまま少このことをしらべてみたいなど思ったので知れ

たらいいなと思いました。

ほかにいろいろなしょうがいをもつ人がいると思います。生活とかたいへんなことを知って、「もつと手つだえたりできればいいな。」と、思いました。

ある日、スーパーマーケットに行ってみると車いすの人がいました。その人は、いつもうけんめいにほしい物を指をさしておしえてるように見えました。その時をおもいだすと、「がんばってるんだ。」と思いました。

みんなたいへんな事ばかりあるかもしれないけど、がんばっていることが分かってうれしかったです。体のどこかがふ自由でもがんばっているなんてすごいなと思います。「わたしもがんばらないと。」と、思いま

した。

そして少し気づきました。たいへんなこともあるけど、いろいろな人が手つだつてがんばっているし手つだう人もがんばっています。その時に、みんな手つだつてあげたりなかよくする人がふえたりすればいいなと思いました。世界にはいろいろなしょうがいをもっている人がいます。「わたしがみんなに、いろいろなことができればいいな。」と思いました。

いろいろな人が、がんばってほしいと思いました。

## 私の妹

太田市立城東中学校

三年 高田 莉乃

私には中学一年生の障害を持つ妹がいます。早産で妹はとて小さく産まれてしまいました。私も未熟児で産まれましたが、妹は更に小さく五六グラムしかありませんでした。妹は、肺がまだ未熟だった為、産まれてすぐ人工呼吸器をつけて治療していました。産まれてすぐの耳の聞こえの検査で難聴がある事も分かりました。赤ちゃんの時から補聴器をつけ始め、嫌がって外してしまったりを繰り返して大変そうだったのを覚えています。妹に話し掛ける時は、ただ大きな声で話すのではなくゆっくりとなるべく大きな口を開け話し掛けるという事を親に教えてもらい話し掛けていました。成長するにつれて聴力も少しよくなり、今では補聴器をつけてい

ない時でもある程度聞きとれ会話が出来るようになってきました。ただ妹は難聴だけではなく脳性麻痺という障害もあります。脳性麻痺とは主に運動機能の発達の遅れがあり、その障害の程度、種類は一人一人違うそうです。妹もお座りが出来ない事や体の突っ張りがあり、検査を受けリハビリが必要と診断されました。そこから私も一緒に妹の病院に付き添うようになりました。リハビリと言っても、小さい頃の私にとっては、ただおもちゃで遊んでいる風に見えました。でも妹にとっては難しいのです。例えば、姿勢を整える事や食べる事、着替え、穴にボタンを通したり、はさみを使ったりなど当たり前にやっていたことが妹にとっては時間がかかり大変なので

す。特に足の緊張が強い為、妹は足に装具を着けています。歩く事が難しく歩行器や車イスを使ったりしています。

いつも明るく元気な妹ですが、ある言葉が私は今でも忘れられません。

「七夕のお願い事で、みんなと同じように歩けるようになりますようにってお願いしたんだ。」

それを聞いて私は胸が痛くなりました。

今まで家族しか分からないような辛い事もありました。妹にとって少しでも良い事だと思ふ事は親もやらせていました。テレビで乗馬が脳性麻痺の子にとって姿勢バランスを改善したり効果的と知り、親が調べて乗馬療法をさせた時もありました。

小学校の運動会では足にまめが出来たり、皮がむけたりしても最後まで諦めず頑張っていました。その姿に私はとても感動しました。そんな妹の頑張っている姿を今まで身近で見えたからこそ嫌な気持ちになったこともあります。妹と一緒にいて手をつないで歩いたり、車イスを押ししたりしている時、周りから変な目で見られる時もありました。その時は嫌な気持ちになり悲しくなりました。足が不自由な為、歩くのが遅くなってしまう

り、ぎこちない歩き方になってしまふ為、それを見て笑う人や真似をする人もいたりしてとても怒りを隠しきれませんでした。そういった行動はしてほしくないと思いました。

みんなにも出来ないことや苦手なことは誰にでもあると思います。「障害」というだけで差別をしたりいじめが起きることはとても悲しいです。楽しい、悔しい、悲しいと思ったりする気持ちは障害あるなし関係なく誰でも一緒だと思います。体に障害があっても、一生懸命生きていることには変わりありません。

私も家族も妹が笑顔でいてくれるだけで元気をもらい笑顔になれます。

これからもっと、障害を持っている人と持っていない人が関わりを持ち障害を持っている人にとって生きやすい社会になってくれたら嬉しいです。



## 自由に生きる

太田市立城東中学校

一年 小林明日香

私の祖父は、去年がんで亡くなりました。私が生まれる前、祖父は左足むぎの骨肉しゅで左足のもの下から切断し、私の記憶にある祖父は片足の祖父でした。

タクシーの運転手をしていた祖父は、片足でも車の運転は上手で、私を幼稚園までお迎えに来てくれたりもしました。祖父はいつも明るく、そして優しく、小さかった頃の私は、弟と車イスに乗って遊んだりしていましたが、「まで、まで〜！」と一緒に遊んでくれました。

そして、私の七五三のお参りの時は、義足をつけて一緒にお参りにも行きました。しかし、時々痛かったのか、歯をくいしばってがまんしていた様子もありました。また、みん

なで階段をのぼってお参りする時も、祖父だけ下で待っていて、一緒に行きたい気持ちとおいていってしまう申し訳ない気持ちを、今でも覚えています。

そんな気持ちは、祖父と出掛ける時、何度も感じました。祖父の大好きな温泉へ行ったら、大きなお風呂に入らず、個室のお風呂しか入れなかった時。バリアフリーの施設ではないと行けなかった時。温泉に限らず、どこへ行くにもバリアフリーであるかどうかの確認を母がしていました。

祖父はきつと、いろんな所へ行ってみたかっただろうなど、今も思います。一度、祖父と出かけた所で、義足をつけ転んでしまったことがありました。けがをしていないか心

配して、義足を周りの前ではずした時の周りの人達の目が私はすごく嫌でした。でも、嫌な気持ちだったのは私よりも祖父の方だったと思います。それから、祖父と一緒に出掛けることがなくなりました。

こんな想いをしている人は、祖父だけではないと思います。バリアフリーが当たり前のような世の中ですが、まだまだ自由に行けない場所が多くあります。家から出なくなってしまう祖父が「病院だけは、とても行きやすい」と皮肉のように言っていました。確かに、どこの病院もどこまでも車イスで行けません。

たまたま祖父は片足がなかったため、車イスを利用する人達の気持ちに気づくことができましたが、目が見えない人、耳が聞こえない人、いろいろな人達がいます。実際に自分がその立場になってみると、心から理解したり共感することはできないと思います。世界中のどんな人でも、生きやすい、そんな世界に私はなつていったらいいと思います。

それに近づくようにするために、私は何ができるのか。私は相手を思いやるのが一番大切だと思います。相手がどうしてほしいのか、常に相手の立場になって考え、行動して

いくことです。全て手助けすることが必ずしも相手のためにはならないこともあるので、時には近くで見守りながら、お互いに自由に居られ、いろいろな人が素で笑えるように少しでもなっていたら、障害者の人や病気の人も少しは、不安が消えると思います。



## 共生する社会へ

太田市立太田中学校

三年 大西結愛

私は手話タップに出会うまで障がいについてあまり考えたことがありませんでした。なぜなら小学校の中学年くらいだったこともあり、世の中には色々な人がいることを認識しているのも身近に感じていなかったからです。

私は小学一年生のときからタップダンスを習っています。そこからタップダンスを通して色々なものや人に出会い、中学年になった頃から「手話タップ」を習い始めました。手話タップとは手話をしながらタップダンスを踊るといふものです。手話タップのクラスでは、耳の不自由な方も一緒にレッスンを受けています。私は最初、手話を覚えることや踊ることなど、自分のことではないでし

た方とも一緒に踊るようになりました。しかし私はまだ、どのように関わればいいのか分からず手話もほとんどできないので、話しかけたり行動にでるようなことは何もしてませんでした。

それからいくつかの舞台に出させてもらうこともありました。今までは、手話タップを舞台で踊るときは一緒に習っていた姉や妹としか踊ることがありませんでした。しかしあるとき、耳の不自由な方とも手話タップを踊る機会をいただき、舞台で踊ることになりました。普段の練習のときは先生が間に入ってコミュニケーションをとっていましたが、本番では先生もずっと一緒にいることができずせん。なので私は、手話で会話ができるかど

うかとても不安に思っていました。

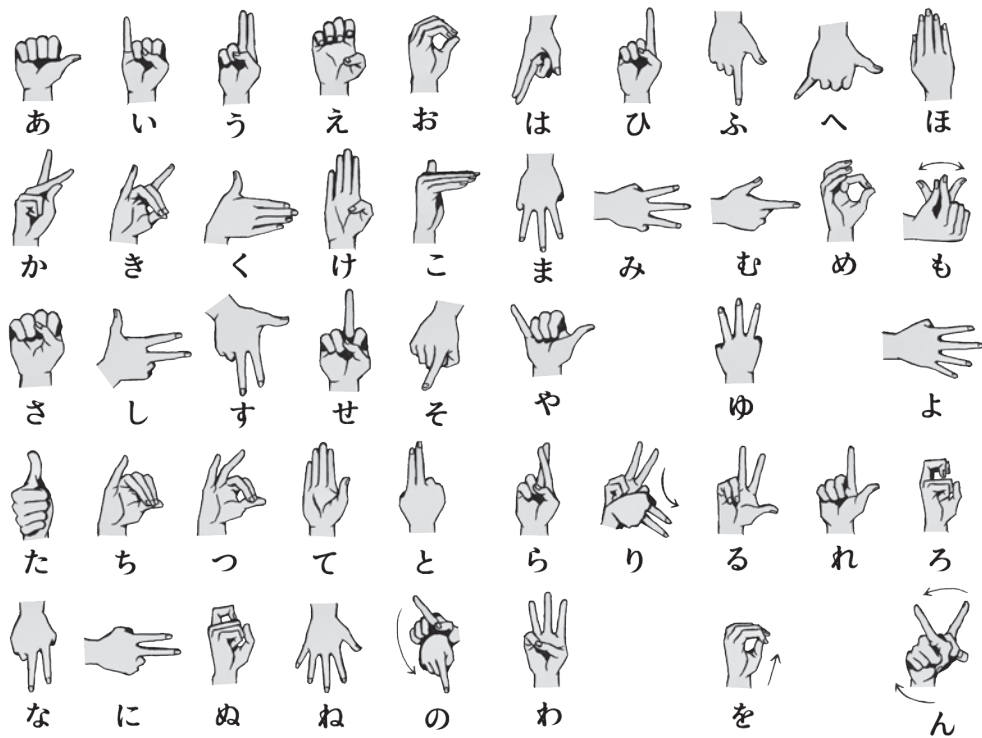
そのような不安も抱えながら、本番の日に一緒に練習していると、耳の不自由な方が手話で話しかけてくれました。私はまだ指文字と簡単な手話しか分かりませんでした。しかし、相手の人はゆっくり簡単に私に手話をしてくれたので理解することができました。私も自分が知っている手話を組み合わせて何とか伝えようと思いました。すると相手も私の伝えたいことを分かってくれたようでした。このようにして会話ができたときはとてもうれしかったです。また、その舞台には耳の不自由な方にも何人か見に来ていただきました。舞台が終わった後にその方たちから良かったよ、と言ってもらえたときには、自分でも舞台から伝えることができたことにとてもうれしく思いました。

私はこれをきっかけにして、簡単な手話で自分からも会話ができるようになりました。練習をしているときには、普段から手話を使っている人たちに見てもらい、色々アドバイスをしていただきました。そこで、少し手の動かし方が違うだけで全く違う意味の手話になってしまうことを教えてもらいました。それでは伝えたいことが伝わらないので、耳

の不自由な人たちにとって手話はとても重要なもので言葉なんだな、と改めて感じました。そして私はその手話をもっと知り、たくさんの言葉を正確に話せるようになりたいと思いました。

私はこれらの経験を通して、障がいのある人と関わる時にどうすればいいかわからない、自分にはできないとあきらめるのではなくまずは自分から歩み寄ることが大切だと感じました。私が何もすることができなかったのは、勇気がでなかったり、勝手に無理だと壁を作ってしまったからです。なので自分の考えから変わらなければいけないと思いました。また、私は少ししか手話はできませんでした。私が伝えようという思いがあれば相手も理解してくれます。どんな方法でも、伝えようとする必要があります。

私はこれからも経験をいかし、小さなことかもしれないけれど自分にできることから行動していきたいと思います。そしてお互いを理解して、どんな人も不自由なく、協力し合いながら生きていけるような社会を作り上げていきたいです。



## 「障がいは個性だ」という言葉を。

群馬県立伊勢崎興陽高等学校

二年 茂木 菖

「ピーって鳴ってるよ？」

これが、私たちの合図。

私の友達に、補聴器を付けている子がいる。彼女は耳が聞こえない。いや、正確に言えば耳が聞えづらいといった方がいいと思う。なぜなら、彼女はプールの授業の時には毎回、補聴器を外していたし、それでも大きな声ではっきりと喋れば会話も普通に出来たからだ。私たちの地区は、ほとんど同じ小・中学校で同じメンバー。地区が狭いため、大体の人は保育園・幼稚園から一緒に過ごしている。だから、学年全体が仲の良い感じだった。そんな私たちにとって「彼女が補聴器を付けている」ということは当たり前であって、何の疑問も起きない。

冒頭のセリフに戻るが、耳が聞えづらい彼女にとって、補聴器は情報を手にするための大切な手段だ。その補聴器が上手く耳に入っていないと、ピーという機械音になる。例えば、モスキート音みたいな小さな高音。この音が鳴ったら、いち早く彼女の肩を叩き、教えてあげるのだ。

そんな彼女と、私は中学校の部活動で同じ卓球部に入った。練習試合や大会などで当然他校の生徒とふれあう機会も多くなる訳で、「あの子、補聴器付けてる。」  
「変な声してる。」

と言ったことを言われたり、なかには彼女のしゃべり方を面白おかしくまねする人までいた。私はその時に、「彼女は障害を持っている

」のだと客観的に気付くのだ。私にとって彼女はそれで当たり前だったから、わからなかったのだ。それでたくさん悩んだのだろうな、と思った。

だけど、私は彼女の良さをたくさん知っている。卓球というスポーツは腕や足、頭だけでなく、耳で球の音を聞いて正確に打ち返すスポーツだ。けれど、彼女は補聴器なんでものともせず、すさまじい集中力と技術があつてめちゃくちゃ卓球が上手かった。私も彼女に全然勝てなかった。それに彼女はおしゃべりが大好きで二人で帰ると、余裕で一時間・二時間話し込んでしまうぐらいだ。そんな彼女の飛び抜けた明るさと努力で、彼女は現在、行きたかった進学校に入学して元気に通っている。

私は、高校に入学して福祉を学ぶようになった。

「障がい個性だ」という言葉を授業で聞いた時、なるほどと思った。障害がある、ないにしても彼女は彼女で他の人は他の人なんだと新しい発見に気付くことができた。「同情はフェアじゃない」と私は思う。同情（イコール）優しさじゃない。同情はかわいそう・私より大変な思い



をしているとその相手を下にみていると感じるからだ。だから、私は同情がはつきり言って嫌いだ。じゃあどうすれば良いのか？

この世の中には、彼女のように目だけでは伝えきれない受け取れきれない情報がたくさんある。だから、補聴器を付けている。情報は共有するもの。だから、辛い思いに同情するんじゃないくて、辛い思いを共有することが大切だと思う。それに、「障がいとは個性だ」それは、障害があってもその人にしか出来ないこともたくさんあるからだ。足が無くてもマラソンで金メダルを取る人がいる。手が無くても絵を描いて賞を貰う人がいる。普段、私たちが何気なくしていることができなくても、その人が誰かの力を借りて生活しているも、その人が幸せなら幸せだ。個性として皆が受容すれば、理解が深まる。人間は違うからこそ日々、発展していくのだと私は思うから。

もし、恐竜が絶滅してなかったら、強肉弱食とって食われる世界だったかもしれないし、ずっと戦国時代だったら多くの人が意味のない戦で亡くなることになっていた。ダメなこと、おかしなことに気付いたから、歴史があり、社会ができた。それに、皆人間が同

じなら、リングが木から落ちたとしても重力は発見されてなかっただろうし、誰かが船で冒険に出なければ、大陸がたくさんあって、いろいろな人種が暮らしていたことに気付かなかっただろう。それに、誰も空に目を向けなかったら、宇宙に行つてなかったら地球が丸く青いということにも気付かず生活することになっていたかもしれない。そう考えたら、人間は多少なりとも違っていたほうが良いじゃないかと思える。そんな人生、楽しくないと思うからだ。

障害を理解するには、多くの人とたくさん出会うこと、相手を受け入れること、そして一緒に楽しく情報を共有することだと私は思う。だから、先入観を捨てて前向きに障害と向き合い、理解することは大変だけれどとても大切だと思う。

人間は、多少なりとも違うことで良いことも悪いこともある。私たち、健常者という立場の人でもそうだ。自分の長所は出ないけど、短所はたくさん出てくるみたいに、それが私たちへの障害だと思う。それで悩むのも障害や障壁であるから皆が受容する心を持つて「障がいとは個性だ」という考え方になれば、もつとすばらしい社会が、世界が生まれるの

でないかと私は感じた。「障がいとは個性だ」という言葉を胸に、私は今日も強く生きようと思った。

心の輪を広げる体験作文

【協会長表彰】



## 山田さんとぼく

太田市立宝泉小学校

三年 田 邊 結 望

ぼくの知り合いに、体に重いしよがいをもった人が4人います。お母さんのしよく場の利用者さんたちです。その人たちは生まれた時からしよがいがあるので、かぞくやせつの人たちにお世話してもらって、今は全員一人ぐらしをしています。その中の一人が山田さんです。山田さんは生まれた時からしよがいがあつて、だんだんきん肉がなくなる病気です。二十一さいまではつえを使ったり、車を運転したりしていたけれど、今は電動車いすで生活しています。山田さんと他の3人の人達には全員で十四人のヘルパーさんがついていきます。たまに、全員が集まってごはんを食べたり、ゲームをしたりします。ぼくもいっしょにパーベキューをしたり、オ

セロやしよぎにさんかしました。ごはんを食べる時は、しよがいの者の人達は一人で食べる事が出来ないのです、しよくじかいじよのお手伝いもしました。食べるタイミングや、次に何が食べたいか聞きながらかいじよをしました。4人の中で一番重いしよがいの人は言葉で話す事も出来ないし、体を動かすことも出来ない人がいます。文字ばんを使つて一文字ずつ話して時間がかかつて大へんだけど、いつもあそんでくれるし、色んな事を教えてくれるので楽しいです。ぼくには目ひょうがあります。しよがいがある人達のためには金をあつめて、びようきのちりょうや、リハビリをして動けるようにしてあげたいです。今しよがいがあつてしゃべれない人達

も、ちりょうを続ければいつかしゃべれる様になつて声が聞けるかもしれないからです。ぼくは、そういうしよがいの者をたくさん助けてあげたいです。そしていっしょによりこびたいです。

## ずーつといつしょ

桐生市立神明小学校

一年 福島 佐和

なつやすみのしゅくだいで、さくぶんをか  
くのくに、こころのわをひろげるたいけんさく  
ぶんをえらんだのは、ことばがきれいだった  
から。ママは、ほんとにそれにするときさ  
きました。わたしはうんといいました。そして  
しょうがいのあるひとのことをおしえてくれ  
ました。

わたしは、しょうがいということばをはじ  
めてしりました。くるまのひとや、め  
みえないひと、はなすのがむずかしいひと、  
いろんなしょうがいがあることがわかりまし  
た。

うちにはおねえちゃんがあります。おねえ  
ちゃんはかくことやはなすこと、からだをつ  
かうこといろんなことががてです。

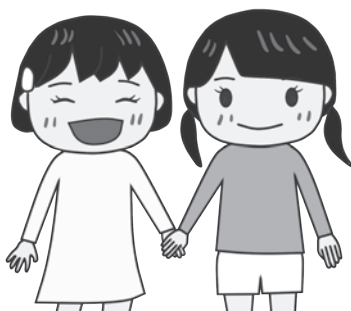
でも、おねえちゃんはあきらめません。い  
つもがんばっています。だけどなんでにがて  
なことがいっぱいあるのかふしぎでした。  
そしてママにおねえちゃんにもしょうがい  
があるとおしえてもらいました。

ふしぎだとおもっていたことがわかったの  
で、おしえてもらってよかったです。

おねえちゃんのことばはだいすき。おねえ  
ちゃんとおそぶのはとてもだいすき、でもと  
きどしかあそべないけどわたしはおねえちゃ  
んとあそぶのはすごくだいすき。

おねえちゃんはおそぶのもたいへんみたい  
だけど、わらったりおどったりてあそびした  
り、いろんなことであそんだのはわたしはわ  
すれないようにしたい。

おねえちゃん、ずーつといつしょにあそぼ  
うね。



## おもしろいおにいちゃん

桐生市立菱小学校

三年 田村 崇明

ぼくのおにいちゃんは、しょうがいしやです。家にいられないので、高校の授業の後、学童のようなどこに行っています。家にいる時は、いつもにこにこしていて、とても楽しそうです。

おにいちゃんの好きな物は、めんです。

きらいなものはほとんどありません。

あとは、テレビやまつりが大好きです。

おにいちゃんはしょうがいしやなので、トイレやおふろに一人で行けないので父と母がやります。夜はねむれないので毎日タブレットをしてからねます。

おにいちゃんは毎日ねる時間は11時か12時ぐらいにねます。

ボールをなげたり、ビー玉をころがしたり

することは、いっぱいできて楽しそうです。おにいちゃんは、しせつに行つたばかりなのでぜんぜんごはんを食べない時があります。

ぼくの弟が「ママのりょうりがはずかしいからじゃない。」と言いました。

だから、ぼくは、「そんなことを言つちやだめだよ。」と言います。

おにいちゃんは、力がつよいので弟やぼくは、すぐにはいぢやいます。

おにいちゃんは、まつりが大すきでみこしがみたくて、行ってしまいます。でも、おにいちゃんは人がいっぱいいると気持ちわるくなつてしまい、はいてしまう時もありかわいそうです。

おにいちゃんは、犬やねこがにがてで、とくに犬のほうがすごくきらいです。

だから、近くに行くとビクツとビクツリします。アレルギーとかは、なにもないので、ただこわいだけかなと思います。

毎日、たいへんだけとおにいちゃんは、へいきでテレビを見えています。

母も父も毎日たいへんでぼくは、学童に行っています。ぼくのおにいちゃんは、たいへんだけとおもしろくて大すきです。

## 通じ合える嬉しさ

群馬県立聾学校

一年 大澤 未来

勇気を出して自分のことを伝え、友達をたくさんつくろうと心に決めたできごとがありました。

私は生まれつき耳が聞こえにくいです。そのため、補聴器をつけて生活しています。補聴器は、水に入れると壊れてしまうので、お風呂やプールに入るときは、外さなければなりません。小学三年生のときのことです。地元のスイミングスクールに入りました。初めは、補聴器を外して大丈夫かなと、とても不安でした。

小学四年生になったとき、新しい友達が入ってきました。その子は、私の耳が聞こえにくいことを知りませんでした。ある時、私に向かって、急に何かを話しかけてくれました

た。でも、口の動きが読み取れなくて分かりませんでした。だから、自分から耳のことを伝えました。「私、耳が聞こえにくいから、なるべく大きく口をあけてしゃべってくれ。」と言うと、その子は「あつ、そっか。」と驚いたように言いました。私の耳が聞こえにくいせいで、周りに迷惑をかけてしまうのかなと思いました。これまで、耳のことを伝えると嫌われてしまったことが何度かあったので、言わなければよかったかなと少し後悔しました。

次の週、不安な気持ちのままスイミングに行きました。すると、その友達が、大きく口をあけて話しかけてくれました。それでも上手く伝わらないときには、手のひらに文字を

書いてくれました。私は、感謝の気持ちでいっぱいになりました。補聴器を外していても健聴の友達とコミュニケーションがとれたと、とても嬉しい気持ちになりました。

ある日、スイミングが始まる前に、その友達と学校の話やゲームの話をしていました。私は、友達が言っているゲームの名前を聞き取ることができませんでした。「ごめん。よく分からなかった。もう一回お願い。」と言うと、その子は何かを思いついたように笑うと更衣室の方へ走っていきました。そして、見ると手に小さなメモ帳と鉛筆を持って戻ってきました。メモ帳を開くと、丁寧な字でゲームの名前を書いて見せてくれました。それを見たとき、はっとしました。私はいつも相手に任せてばかりだと気付きました。私もお互いが分かりやすく話せるように、何か工夫しなきゃと思いました。自分にできることは何かと考え、思いついたのは、私がいつも使っている指文字と手話を友達に知ってもらうことでした。しかし、興味をもってくれないかもと不安な気持ちもありました。

今日はどんな手話を教えてあげようかなと考えながら、スイミングに行きました。いつも通りに話した後、手を動かしながら、「これ、

手話っていうの。知ってる？」と友達に聞き  
ました。友達は「見たことあるけど、できな  
い。」と言いました。今日は友達に手話を知っ  
てほしいと自分の中で決めていたので、私は  
あいさつの手話をやって見せました。そして、  
「これはね、人と人が向かい合ってあいさつ  
をしているんだよ。」と手話の意味を話しま  
した。すると、友達は目をきらきらと輝かせ  
ながら、自分の知りたい単語を次々と話して  
くれました。良かった。興味をもってくれた  
と、おもわず友達の手を握りしめたくなりま  
した。その日から私達は、スイミングで会う  
たびに手話をつけてあいさつをするようにな  
りました。そして、友達は自分から指文字や  
あいさつの手話を調べて使おうとしてくれま  
した。

私は、彼女と出会ったことで、お互いのコ  
ミュニケーション方法が違って、伝え方を  
工夫すれば通じ合えることを学びました。私  
の勇気を受け止めてくれてありがとう、と彼  
女に言いたいです。



## 僕の家族

邑楽町立邑楽中学校

三年 平 川 力 暉

皆さんは「ダウン症」という障害を知っていますか。ダウン症の正式名称は「ダウン症候群」です。知能がダウンしているからダウン症ではありません。ダウン博士が最初に論文を発表したことからこの名前がつけられました。ヒトの染色体は通常二十三対四十六本（二本一組）あります。しかしダウン症は大きい方から順に番号をつけて、二十一番目の染色体が三本あります。このことから二十一トリソミー（トリとは三を意味します）とも呼ばれます。

僕の妹はこの障害を持って生まれました。今年で八歳になります。妹が生まれた時、まだ小さかった僕は、この障害に始めは気づきませんでした。小学四年生の時に、妹の小指

の関節が一つしかないことや、発達が遅れることなどに気づいた僕は、親に聞いたところこの障害を持っていることを知りました。僕の同級生にもダウン症の子がいて、よく休み時間に遊んだりしていました。そのおかげで聞いたときにそこまで驚かなかったような気がします。

妹はいつも笑ったり歌ったり踊ったりして、とても楽しそうにしています。そんな妹を見てみると、家族みんな幸せな気分になります。周りの人を幸せにする不思議な力を持つているように感じます。きっと妹はこの家族を幸せにするために生まれてきたのだと思います。しかし、もちろんいいことばかりではありません。頑固な性格というののもあ

り、嫌なことがあると座り込んでしまったり、そっぽを向いたり、時にはスパーで急に歌って踊ったりしたりして注目を浴びてしまうこともあります。

やはり発達も遅いので、出来ないことがたくさんありますが、最近ひらがなを読んだり書いたりできるようになってきました。僕の名前を書いてくれたりします。間違っていたりするけどそれもかわいいです。スピードは明らかに遅いですが、少しずつ成長しているので見守ってあげたいです。

妹の一番の特徴は、優しい心を持っていることです。学校で泣いている子がいたらすぐにそばに行き、ずっとそばに寄り添ってあげるそうです。家でも僕が元気がないとき、そばにきて心配してくれます。言葉がうまく喋れない頃から、言葉ではない何かを使って励ましてくれました。

視野が狭い妹は、家で机や柵にぶつかりそうになることがよくあります。家の外でも人や物にぶつかりそうになったりします。外で人がぶつかってきたりすることがあっても、障害を持っているのかもしれないと考えてみて欲しいです。

ダウン症の成人の人にとつたあるアンケート



トでは、九割の人が毎日が幸せと回答したそうです。このことから、「障害を持つている人」＝「可哀想」とは考えないでもらいたいです。

障害者の人にしか出来ないことや、障害者の人から教わることは少なからずあると思います。僕は妹がダウン症という障害を持っています。僕が妹がダウン症という障害を持っていないかつたら、こんなに障害について詳しく知ることはできなかったと思います。ダウン症の特徴の一つとして顔が似ているというのがあります。町でダウン症の人を見かけることがたまにあります。なぜかそのとき少し嬉しい気持ちになります。これも妹がダウン症という障害を持って生まれなかつたら絶対なかつたことでした。ダウン症以外にもたくさん種類の障害があります。障害を持っている人も平等に暮らせる社会になってほしいと思います。医療技術が発達しても「障害」という言葉はこの世からなくならないでしょう。「障害」という言葉がなくならない限り、障害者について知る必要があると思うので、僕ももっと知りたいです。

最後に妹が生まれてきてくれて色々な意味でよかつたと思います。これからも妹にしか出来ない力で、家族を明るくして欲しいです。



## ぼくの体

群馬県立二葉特別支援学校

一年 高 梨 翔

ぼくは、生まれた時から心ぞうの病気があり今までに8回の手じゅつをしました。ペースメーカーと心ぞうの中にきかいべんが入っていてたくさん薬を飲んでいきます。一番大事な薬はワルファリンと言う薬です。このクスリは、血を固まりにくくして血をサラサラにするクスリです。このクスリを飲んでいながら気を付けることがたくさんあります。血がとまらなくなったり、アザが出来やすいです。食べてはいけない物があります。それは納豆やビタミンKなどたべてはいけません。虫歯もよくないので毎日しっかり歯みがきをしています。ぼくの体は心ぞうだけではなく左の手と足が不自由です。心ぞうの手じゅつをした時に血の固まりが頭の中に入ってしまう

い脳こうそくになってしまいました。小児医りょうセンターでのリハビリや、在宅でのリハビリをして小学校に入学する少し前に一人で歩けるようになりました。左手を使うことはむずかしくてなかなかできませんでした。リハビリをつづけているうちに一人で洋服を着たり脱いだり紙をおさえたり、お茶を飲むを持つことなど色々できるようになりました。今でも在宅リハビリは1週間に1回続いています。もつと色々なことができるようになるためにリハビリをがんばりたいです。ぼくには、4つ上のお兄ちゃんがいます。お兄ちゃんはぼくが左手を使うことが苦手なことを分かっている、両手を使うボールあそびや自転車やゲームなど色々かんがえて一緒にあ

そんでくれます。2カ月に1回は心ぞうの病院で東京まで行きます。その時も一緒に付いて来てくれます。ぼくに心ぞうの病気や左手足の不自由があっても色々なことをたくさん教えてくれます。そんなお兄ちゃんがぼくは大好きです。心ぞうの病気や手足の不自由で大変なことはたくさんあるけど、今は楽しく学校へ行って友達もたくさんいて勉強も出来てとっても楽しいです。これからの目ひょうは、車のめんきよをとって車を運転することです。そのためにリハビリをがんばりたいです。勉強もたくさんがんばりたいです。

## 障害・病気に対して

群馬県立伊勢崎興陽高等学校

三年 吉田 ほか

皆さんは聴覚障害についてどのようなイ

メージを持っていますか。喋れない、聞こえない、そんなイメージを持っている方も多いと思います。しかし、それは違います。喋れる方もいれば、音が低ければ、高ければ聞こえる、補聴器を付ければ音が入ってくる、といった方もいます。聴覚障害になった部位によつて伝音性難聴、感音性難聴、混合性難聴に分類されます。聴覚障害という中でもたくさんの方の分類があり、人それぞれです。

私は聴覚分野に興味を持ち、特に手話を調べています。そんな中、手話通訳の方と仲良くなり、聴覚障害を持っている方と話す機会を設けていただきました。筆談と私の拙い手話でたくさんのお話を聞くことができましたし

た。

まず、私は生活についての話を聞きました。「生活の中で困る場合はどのようなところですか。」すると、〃やはり、公共交通機関や地震といったときです。〃と教えていただきました。私たちは、自分では意識していないだけで、耳からたくさん情報を得ています。それが、目だけの情報に限定されると急な遅延や地震の警報音には気づくのが遅くなるということでした。

次に、学生時代のことを聞きました。「学校で困ることはありましたか。」すると、〃学校はたくさんさんの配慮があるので、普通校と変わりなく過ごすことができていると思います。〃と教えていただきました。ろう学校の

ことを聞くのは初めてでしたが、普通校となら変わりはないうように思いました。

私は次に、世間の目について聞いてみました。「差別や偏見などの体験はありますか。」すると、〃直接ではありませんが、友人が全く聞こえないと思われ、横で悪口を言われたという話を聞きました。聴覚障害を持っている人は、全部聞こえないわけではないし、表情が分からないわけでもありません。言葉は聞こえていなくても、雰囲気でわかる時があります。〃と言っていました。聞こえないし、分からないというわけではありません。また、口話と言って、口の動きで話している内容を読み取れる方も中にはいます。知らないということから差別や偏見は生まれます。まずは知ることから始めるのが最善だと、お話をさせていただいて、気がつきました。

まだまだ、聴覚障害に限らず、障害や病気に対して差別や偏見が多いと私は思います。障害や病気を持っている方に、物理的に危害を加える方は少ないですが、言葉で危害を加える方は非常に多いと感じます。昔よりは、障害や病気を公表している方は多くいると思いますが、その分、SNSも大きく発展しています。その方に対する誹謗中傷も絶えませ

ん。以前、このような文をSNSで見かけたことがあります。「車椅子のせいで、バスが遅くなった。乗らないで欲しい。」というものです。私はこれを見たとき、ショックを受けました。障害や病気を持っている人に関わらず、人は誰しも助けが必要な時があるのに、自分のことを棚に上げて発言するのは、おかしいと思いました。自分とは違うという理由は通用しません。誰しも違う人間です。思うことは自由だと思います。しかし、誰かの目に触れるSNSに投稿するのは違うと感じました。マイナスな言葉より、プラスな言葉の方が、よりよい世の中になると、私は考えます。

このように、まだ、障害や病気を受容し、理解するには時間がかかると思います。小学生や小さい頃から様々な人に触れながら育てば、差別や偏見の少ない世代が来るのではないかと考えることがあります。ネットの情報には、デマやマイナスなイメージを持たせるものが多くあります。その情報に踊らされることなく、真実を見極めることも大切だと思います。大人になってからでも考え方を変えられることができます。ボランティアなどに参加し、様々な人と知り合えば、理解を深めるこ

とができます。一人ひとり、知ろうとすれば、少しでも障害や病気に対する偏見が減ると思います。もっと温かい世の中になればと日々願っています。よりよい未来を見れるように私も努力したいです。



# 障害者週間のポスター

【知事表彰】



■ 小学生部門 ■



最優秀賞

「表彰台のてっぺんを目指して」

前橋市立永明小学校

6年 今井 奏良



最優秀賞

「繋がる心で広がる世界」

藤岡市立西中学校

3年 米川 心優



優秀賞

「助け愛 笑い愛」  
みなかみ町立月夜野中学校  
1年 澁谷 咲葵



# 障害者週間のポスター

【肢体不自由児協会会長表彰】





**最優秀賞**

『『普通』じゃない。だから良い。』

前橋市立南橘中学校

3年 星野 百香

……豆知識……

手足の不自由な人のために

○階段で車イスの昇り降りを手伝うときは、二・三人で昇りは前向き、降りるときは後ろ向きで、車イスの人が落ちないように気をつけましょう。

○松葉杖の人や義足の人などが乗り物で困っているのをみかけたら、進んで席をゆずりましょう。

○雨の日は松葉杖の人が困る日です。傘はさせないし、足下はすべる危険もあります。松葉杖の人を見かけたら、守ってあげましょう。

○手足の不自由な人を見かけても、すぐ手を貸す必要はありません。困ったときや助けを求められたときに、はじめて手を貸してあげてください。

手足の不自由な人たちは、人に迷惑をかけるのを、とても心苦しく思うのです。それだけに、こまやかな心づかいが必要です。

令和二年度

「心の輪を広げる体験作文」  
「障害者週間のポスター」

作品集

令和二年十二月 発行

発行所 群馬県健康福祉部障害政策課

群馬県肢体不自由児協会

〒三七二八五七〇 前橋市大手町一―一―一

☎〇二七(二二六)二六三四